

JAIPフェーズ2除幕式における河野太郎外務大臣挨拶 (平成 29 年 12 月 26 日, 於:ジェリコ農産加工団地(JAIP))

ラーミー・ハムダッラー首相,
アビール・オウデ経済庁長官,
御列席の皆様,

アッサラーム・アライクム (皆さんこんにちは)

長年パレスチナに携わってきた私にとり、外務大臣として初めてパレスチナの地を訪問することができて、大変嬉しく思っております。

日本が始めた「平和と繁栄の回廊」構想の旗艦事業である「ジェリコ農産加工団地 (JAIP)」は、本年で 10 周年を迎えました。私が 10 年前にこの場所を訪問した際には、ここには道が一本通っているだけで、「この道が『回廊』なのか」と思ったほどです。その後 10 年間、我々はどのような時でも歩みを止めず、皆様とともに「平和と繁栄の回廊」構想の推進に取り組んで参りました。その結果として、ここジェリコの地にまかれた希望の種はこのように大きく育ってきております。

パレスチナは引き続き困難な状況にあります。和平合意のための当事者間の対話は 3 年以上停滞し、エルサレムを巡る情勢は複雑化しています。しかし、中東和平の実現が簡単ではない状況にあればこそ、私は、パ

レスチナの友人として日本が、経済面であれ政治面であれ、日本らしいやり方で持てる力を尽くして和平の実現に一層貢献すべきであると信じています。

私は、外務大臣に就任して以来、中東外交を日本外交の柱の一つに据え、本年９月にカイロで初めて立ち上げた「日アラブ政治対話」の場で、日本が中東の安定のために積極的な役割を果たしていくことを表明しました。そのために、①知的・人的貢献、②「人」への投資、③息の長い取組、④政治的取組の強化、の四点を基本的な方針として、この「河野四箇条」の下で日本らしい取組をこれまで以上に実践していく考えを表明しました。

パレスチナへの取組は私の中東外交の最前線です。これまでの関係者の努力が実り、JAIP では現在８社が稼働し、来年１月には１２社が稼働見込みであると聞きました。JAIP はパレスチナの人々の雇用を生み、パレスチナの将来の国作りに希望をもたせるものです。本日、JAIP がフェーズ２のスタートを切ることを歓迎します。私は、「四箇条」の実践として JAIP への取組を一層強化すること、そして、「平和と繁栄の回廊」構想からより多くのパレスチナの人々やパレスチナを越えた地域の多くの人々が裨益し、「回廊」構想が地域の安定に一層の貢献をするよう取り組んでいく決意です。

そのために、本日ここに「平和と繁栄の回廊」構想のグレードアップを宣言します。具体的には、ICT 分野や、物流円滑化への支援に取り組みます。

第一に、パレスチナの人々が壁を越えて世界と自由につながる「平和と繁栄の回廊」のネットワーク実現に貢献すべく、ICT 分野への支援を拡大します。具体的には、JAIP に産業人材育成センターを新設し、ICT 起業部門を立ち上げ、ICT 分野でのパレスチナの人々の起業を支援していきます。また、JICA を通じて政策アドバイザーを派遣し、パレスチナ自治政府（PA）国民経済庁での ICT 関連の法整備や起業家支援政策の策定を支援していく考えです。さらに、パレスチナの優秀な人材を日本に招待し、ICT 産業視察や企業関係者とのネットワーク作りの場を提供します。ビルゼイド大学やパレスチナの ICT 協会等、パレスチナの民間セクターとの協力も検討していきます。これに加え、この分野での教育や人材育成においても協力していきたいと考えています。

第二に、JAIP 製品の湾岸諸国・アラブ地域、欧米、そして世界への流通を実現すべく、物流の円滑化に貢献します。そのために、キング・フセイン橋（アレンビー橋）・ヨルダン側国境施設の機能拡張計画も踏まえ、アクセス道路の建設準備を進めて参ります。

日本のパレスチナ支援は JAIP の取組に止まるものではありません。日本政府は、JAIP への 750 万ドルを含む、約 4000 万ドルの新たな支援を実施していく考えです。これにより、パレスチナの将来の国作りに向けた日本の支援総額は約 18 億 5 千万ドルに達する予定です。

日本はまた、来年 5 周年を迎える CEAPAD を通じて、アジアの成長の知見とエネルギーをパレスチナに注いで参ります。そのために、事情が許せば、来年夏頃までに CEAPAD 閣僚級会合を開催します。また、息の長い取組として、今年 20 周年を迎えた「イスラエル・パレスチナ合同青年招聘」を今後も続けて参ります。私も東京でイスラエルとパレスチナの参加者とお会いする機会がありました。イスラエルとパレスチナの未来を担う若者が日本での滞在を通じて友情を紡ぎ、その絆の広がりが、将来二国家が平和に共存できる土台作りに繋がるのであれば、これほど嬉しいことはありません。

日本はこれからもパレスチナの将来の国作りを支援すべく、パレスチナの人々と地道に汗をかいて参ります。パレスチナの人々の真の友人として、この地に平和と希望の種をまき続け、皆様とともに育てていきたいと思ひます。

シュクラン・ジャジーラン（ありがとうございました）

（了）